

# 非常通報装置

## コルソスCS-D119

### 総合(機器・工事)説明書

初 版  
昭和63年11月

**Nitsuko**

**日通工株式会社**

〒213 川崎市高津区北見方260 電話(044)811-1111(大代)

# 目 次

	頁
1. 概 要 .....	1
2. 性 能 (規格) .....	1
3. 構 成 .....	2
4. 動作範囲 .....	2
5. 機能動作 .....	3
6. 設置場所 .....	5
7. 設置及び工事 .....	6
7.1 非常通報装置本体取り付け方法 .....	6
7.2 119番通報押ボタン取り付け方法 .....	7
7.3 結線工事 .....	8
7.4 各種設定 .....	11
7.5 ダイヤルデータ, 通報メッセージの設定方法 .....	12
7.6 動作試験 .....	15
8. 取扱上の注意 .....	23
9. 保守点検要領 .....	24
付図 1 コルソスCS・D119 非常通報装置システム構成図	
付図 2 コルソスCS・D119 非常通報装置外観図	
付図 3 コルソスCS・D119 非常通報装置構造図	
付図 4 コルソスCS・D119 非常通報装置操作説明ステッカー	
付図 5 119番通報押ボタン外観図	
付図 6 119番通報押ボタン構造図	



## 1. 概 要

本装置は、電話回線に接続して、本装置内の119番自動通報用押ボタンの押下や外部非常入力、もしくは、本装置に接続される自動火災報知機の起動により、119番発信及びあらかじめ設定してある連絡宛先(最大9ヶ所)を自動的に呼び出し、音声合成のメッセージを送出します。

## 2. 性 能 (規格)

項 目		性 能 ・ 規 格	記 事
使用回線及び回線数		一般加入電話回線 1回線/2回線	回線数は、内部切替スイッチによる。(注1)
ライン極性		無極性	
ダイヤル形式		ダイヤルパルス信号(10pps/20pps) または押しボタンダイヤル信号	
通報宛先記憶容量		10宛先(第1宛先は119番)	
ダイヤル番号記憶桁数		最大16桁	
表 示		7セグメント 12桁LED	
119番通報	呼出時間	40秒	
	休止時間	10秒	
	呼出回数	119番が応答するまで繰り返す	
一般通報	呼出時間	40秒	
	休止時間	10秒	1サイクル終了後の休止時間は、50秒
	呼出回数	1宛先毎に最大2回	
話中検知	119番通報	話中音検知で局線開放、15秒後再発呼し、相手応答まで繰り返す	
	一般通報	話中音検知で局線開放、15秒後次宛先へシフト、計2回まで発呼	
応答検知	119番通報	0.3秒以上の音声入力、もしくは、呼出音後の5秒以上の無音	
	一般通報	極性反転	
メッセージ方式		音声合成IC	(注2)
録音時間		16秒	
自火報入力		無電圧マーク接点	
外部非常入力			外部非常押ボタン及び非常一斉通報装置接続専用
外部取消入力		無電圧マーク接点	
外部出力電源		+12V±5% 0.1A	
入力電源		AC 100V±10% 50/60Hz	
停電補償		1時間以内で動作可能 メモリバックアップ24時間	待機時
バックアップ 배터리		1.2V×14個 Ni-Cdバッテリー	
消費電力		待機時7VA, 動作時15VA	

項 目	性 能 ・ 規 格	記 事
外 形 寸 法	約 310mm(W) × 約 66mm(D) × 約 372mm(H)	
重 量	約 5 kg	

(注1) 1回線/2回線設定

本装置は、1回線仕様/2回線仕様が内部切替スイッチにより設定できます。1回線仕様において、第1宛先である119番通報が完了（通報メッセージの10回送出完了か119番からの呼び返し信号検出）すると、同一回線を使用して一般通報先（最大9ヶ所）への通報を開始します。

2回線仕様の場合は、119番へ通報メッセージを送出後、1回線目を「呼び返し応答用電話機」へ接続し2回線目を使用して一般通報先への通報を開始します。

(注2) メッセージ内容

メッセージは、内蔵のマイクロホンにより録音可能です。

メッセージ内容は、本装置内部の119番自動通報用押しボタンの押下（もしくはオプションの外部非常押ボタン）時と、自火報入力により2種類に区別されます。

非常通報ボタン入力では、

「ピッピッピッ、ピッピッピッ火事です。火事です。

こちらは、〇〇町〇〇丁目〇〇番地の〇〇ホテルです。

逆信願います。」

自火報入力では、

「ピンポン、ピンポン 自動火災報知設備が作動しました。

こちらは、〇〇町〇〇丁目〇〇番地の〇〇ホテルです。

逆信願います。」

### 3. 構 成

品 名	数 量	記 事
非常通報装置	1 台	(本体)
呼び返し電話機	1 台	技術基準適合認定品
外部非常押ボタン	最大5台	オプション

### 4. 動作範囲

項 目	動 作 範 囲	
電 源	AC100V ± 10V, 50Hz/60 Hz	
外部非常押ボタン及び自動火災報知設備移報接点まで配線ケーブル線路抵抗	導線径 0.5 mm 配線 150m (20Ω)	
周 囲 温 度	動 作 時	0 ~ 40 °C
	保 存 時	-10 ~ 50 °C
周 囲 湿 度	20 ~ 90 % (結露不可)	

## 5. 機能動作

### 5.1 119番通報

#### (1) 手動起動動作

本装置の119番自動通報用押ボタン、または外部非常押ボタンが押されると、電話回線を一般事務用電話機から本装置側に切り替え、119番に自動発信し、119番が応答すれば、あらかじめ録音されている手動起動メッセージを送出します。

#### (2) 自動火災報知設備連動動作

自動火災報知設備の移報接点を連動停止スイッチ箱を通して、本装置に接続すれば、それが作動した時、電話回線を一般事務用電話機から本装置側に切り替え、119番に自動発信し、119番が応答すれば、あらかじめ録音されている（手動起動メッセージとは異なる）自火報起動メッセージを送出します。

#### (3) 呼出時間及び不応答再呼出

呼出時間は、最大40秒であり、40秒を経過しても119番が応答しない場合は、いったん開放し、再呼出を行います。再び不応答の場合は応答するまでこれを繰り返します。

#### (4) メッセージ録音方式

音声合成 IC

#### (5) メッセージ録音長 ※ (F-1～-4まで個別に録音する事になります。)

約 1.5 秒	約 10 秒	約 1.5 秒	約 3 秒
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     火事です。 火事です                 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     こちらは〇〇町〇〇丁目 〇〇番地の〇〇旅館です。                 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     逆信 願います。                 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     自動火災報知設備 が作動しました。                 </div>
共通指定メッセージ F-1	個別指定メッセージ F-2	共通指定メッセージ F-3	共通指定メッセージ F-4

合わせて16秒以下  
(メッセージの録音の項参照)

#### (6) 信号音長

電子音にて出す

約 3 秒

約 3 秒

ピッピッピッ  
ピッピッピッ

ピンポーン  
ピンポーン

※この電子音は、あらかじめ本装置に録音されていますので、録音の必要はありません。

手動の時

自火報と連動の時

#### (7) メッセージ長及び内容

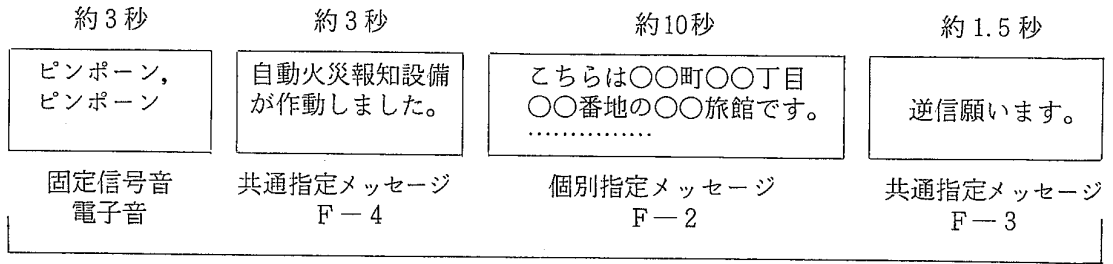
※ (F-1～-4に録音したメッセージが下記のとおり並べ換えられ送出される事になります。)

##### (a) 手動起動メッセージ

約 3 秒	約 1.5 秒	約 10 秒	約 1.5 秒
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     ピッピッピッ, ピッピッピッ                 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     火事です。 火事です。                 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     こちらは〇〇町〇〇丁目 〇〇番地の〇〇旅館です。 .....                 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     逆信願います。                 </div>
固定信号音 電子音	共通指定メッセージ F-1	個別指定メッセージ F-2	共通指定メッセージ F-3

合わせて約16秒

(b) 自火報起動メッセージ（自火報と連動の場合）

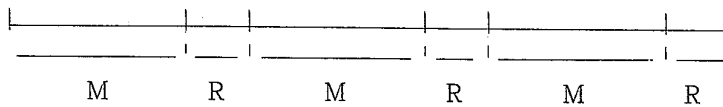


合わせて17.5秒

※（F-1～-4に録音したメッセージが上記のとおり並べ換えられ送出される事になります。）

(8) メッセージ送出回数

119番へのメッセージ送出は、上記(7)のメッセージを1区切りとして、119番からの呼び返し信号が到来するまで、次のようなサイクルで送出します。（最大10サイクル）



M: (7)のメッセージ (MAX 17.5秒)

R 休止時間（おおむね5秒）

(9) 呼び返し応答通話

1区切りのメッセージを送出し終わった時点で119番からの呼び返し信号が到来すればメッセージの送出は停止し、今119番に接続されている電話回線は「呼び返し応答用電話機」に接続され、その電話機のベルが呼び返し信号により鳴動し、送受器をあげれば、119番と通話できます。

(10) 途中割込通話

メッセージ送出途中「呼び返し応答用電話機」の送受器を上げ本体の通話ボタンを押せば、メッセージの送出は停止し、今119番に接続されている電話回線を当該電話機に接続し、119番と通話できます。

(11) 話中再呼出

119番が話中の場合には、再呼出します。

(12) 優先割込通報

一般事務用電話機が通話中であっても本装置の起動がかかれば、その通話を強制切断し119番通報動作を開始します。

(13) 手動起動メッセージ優先

上記(2)の自火報起動による自火報起動メッセージ送出途中において、上記(1)の手動起動動作が行われた場合には、即刻送出メッセージは、手動起動メッセージに切り替わります。

5.2 近隣宛先通報

(1) 119番通報動作終了後、最大9宛先全てに対し、順次自動発信し、119番へ通報した同メッセージを送出します。（但し、F-3は送出されません）

(2) 呼出時間及び不応答再呼出

呼出時間は、最大40秒であり、40秒を経過しても応答しない場合には、当該宛先に対する呼出

しを停止し、次宛先に対する発信通報動作に移行する。1宛先に対する不応答再呼出回数は、最大2回までです。

(3) メッセージ録音方式

音声合成 IC

(4) メッセージ長及び内容

119番通報と同じ。(但し、F-3は送出されません)

(5) 話中再呼出

上記(2)の不応答時と同様、次宛先に対する発信通報動作に移行します。

1宛先に対する話中再呼出回数も不応答再呼出時と同様最大2回までです。

5.3 通報モニター

119番通報時、本装置内のスピーカーからダイヤル送出音・送出メッセージが聞こえます。

5.4 ランプ表示

(1) 電源ランプ

AC 100 Vが入力されていると点灯します。停電時バッテリーだけの時は、点滅します。

(2) 発報ランプ

119番自動通報用押ボタン入力、外部非常押ボタン入力等の入力からの起動入力にて点灯し、取消し操作にて点滅に変わり、起動入力信号復旧にて消灯します。

(3) 通話ランプ

119番からの呼び返し信号の到来、または通話ボタン操作により、「呼び返し応答用電話機」が通話可能な状態になると点灯します。

(4) 異常ランプ

CPU異常検出時点灯、復旧すれば消灯します。

5.5 取消し

本操作がいずれの作動状態にあっても、取消ボタンを押せば、その時点で発信、通報動作を停止します。

119番と通話時に取消ボタンを押せば、119番からの逆信はその回線に接続されている一般電話機にかかります。

5.6 操作忘れ防止機能

テスト動作終了の操作忘れがあっても、前扉を閉じることにより、起動入力待機状態となります。

5.7 誤って起動させた場合は、ただちに取消ボタンを押して、一般電話機より119番へ訂正の電話をしてください。

## 6. 設置場所

機器の取り付け場所は下記の点を考慮して決めてください。

- (1) 局線が引き込みやすい。
- (2) 塵が少なく、温度、湿度、振動等の影響を受けない。
- (3) 通行、仕事の妨げとならない。
- (4) 雨や部屋の清掃時、冠水の危険がない。
- (5) 油煙や湯煙の影響を受けない。
- (6) 直射日光を受けない。

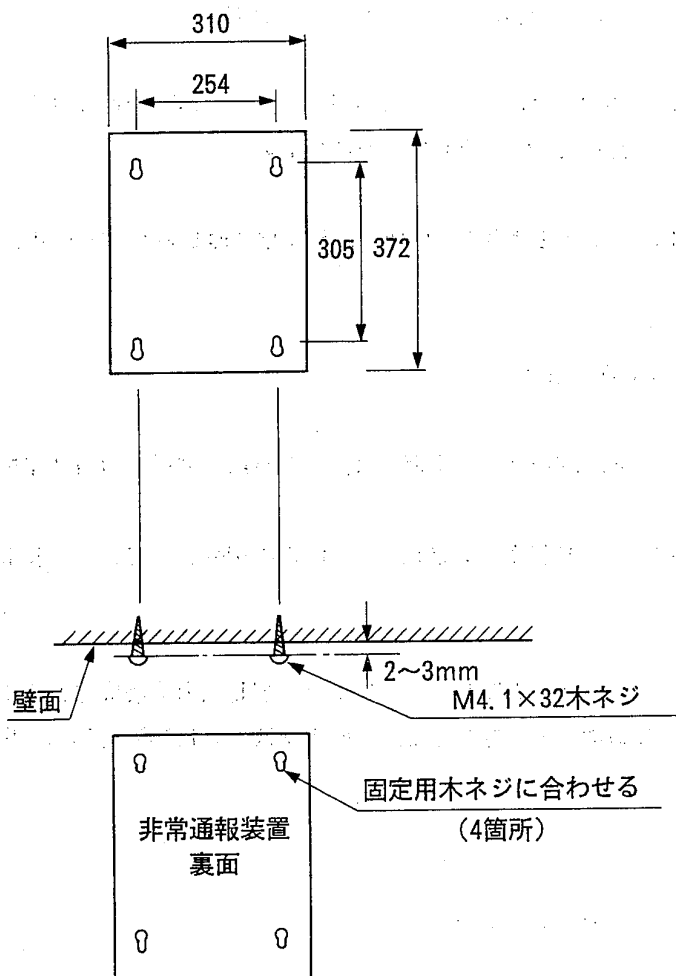
- (7) 24時間給電可能な電源コンセントに近い。
- (8) 近隣に高周波ノイズの発生源がない。

## 7. 設置及び工事

### 7.1 非常通報装置本体取り付け方法

呼び返し応答用電話機は、操作、点検を容易にするために、本装置の近くに設置してください。  
また、本装置は、壁面に木ネジでしっかり固定してください。

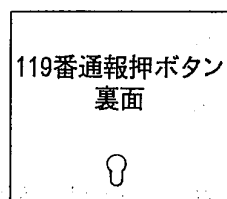
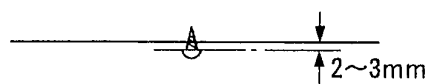
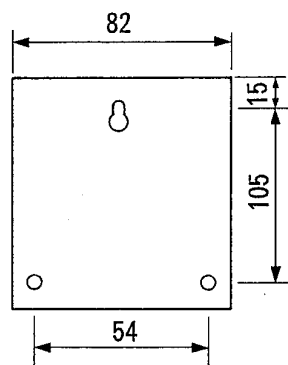
- (1) 本装置の重量は、約 5 kg であり、壁面は、これに十分に耐えること。
- (2) 本装置の取付けは、下記の通りです。



### 作業手順

1. マーキング図に従い壁面に非常通報装置固定用木ネジ (M4.1×32) 4本を取付け、壁面より 2~3 mm 浮かせてねじ込んで下さい。
2. 非常通報装置裏面の取付穴を木ネジに合わせて、引っ掛けるように止めて下さい。
3. 木ネジを十分に締めつけ、非常通報装置を壁面に固定して下さい。

## 7.2 119番通報押ボタン（外部非常押ボタン）取り付け方法

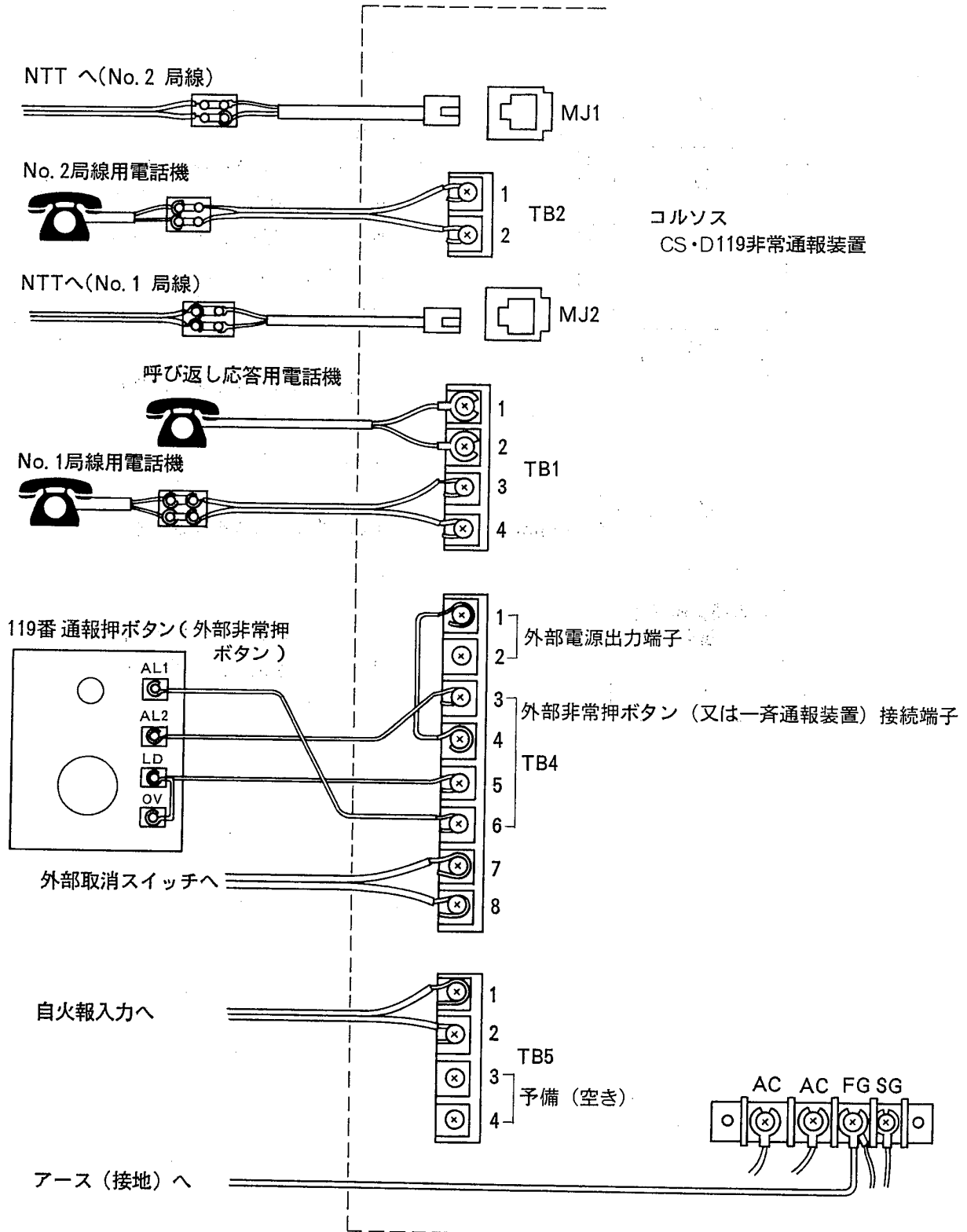


### 作業手順

1. マーキング図に従い壁面に固定用木ネジ (M3.1×12) 1本を取り付け、壁面より2~3mm浮かせて、引っかけるようにとめます。
2. 裏面取り付け穴を木ネジに合わせて、引っかけるようにとめます。
3. 下側の木ネジ2本を固定して下さい。
4. 木ネジを3本とも十分に締め付け、カバーを取り付けて下さい。

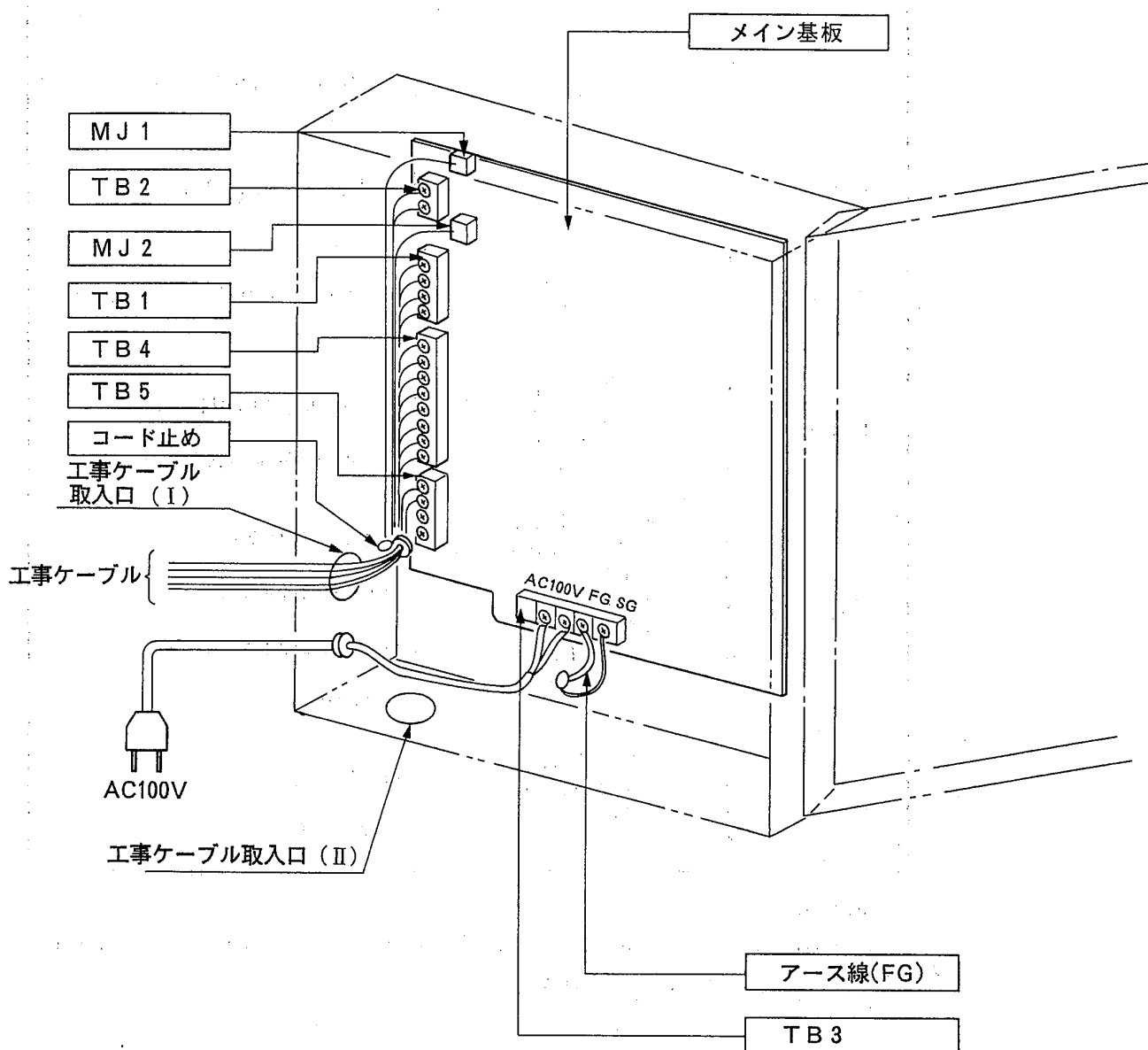
### 7.3 結線工事

#### 工事ケーブルの接続(1)



※ 119番通報押ボタンの複数（5個まで）接続についてはマルチ配線。

工事ケーブルの接続(2)



工事ケーブル取入口は、左側面〔工事ケーブル取入口 (I)〕と下面〔工事ケーブル取入口 (II)〕の2箇所設けてありますので、本機取り付け場所によって、何れか適当な取入口より、工事ケーブルを取入れて下さい。

取入口より、取入れた工事ケーブルは、コード止めで結束しておいて下さい。

※対地アースについては、第3種対地アース（接地抵抗100Ω以下）を必ず実施して下さい。

端子表

端子 No. (またはコネクタ)	名 称	内 容
M J 1	1 2 3 4 2 L <sub>1</sub> 2 L <sub>2</sub>	] 2 回線目の局線接続モジュラーコネクタ
T B 2	1 2 2 T <sub>1</sub> 2 T <sub>2</sub>	] 2 回線目の電話機接続端子
M J 2	1 2 3 4 1 L <sub>1</sub> 1 L <sub>2</sub>	] 1 回線目の局線接続モジュラーコネクタ
T B 1	1 2 3 4 1 T 2 1 1 T 2 2 1 T 1 1 1 T 1 2	] 呼び返し応答用電話機の接続端子 ] 1 回線目の電話機接続端子
T B 4	1 2 3 4 5 6 7 8 4 T 1 (GND) 4 T 2 (+12V) 4 T 3 (+) 4 T 4 (-) 4 T 5 (+12V) 4 T 6 (IN) 4 T 7 (GND) 4 T 8 (IN)	] 外部電源出力端子 ] 119 番通報押ボタン入力 ] 119 番通報押ボタン出力 ] 外部解除入力
T B 5	1 2 3 4 5 T 1 (IN) 5 T 2 (GND) 5 T 3 5 T 4	] 自火報入力 ] 予備 (空き)

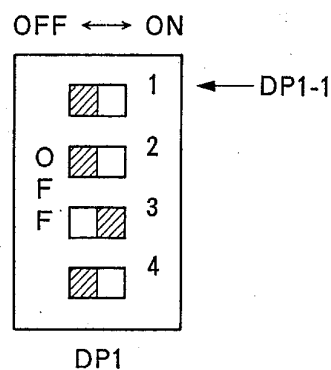
注) 配線に関しては  
この機器に引き込む前で局線ブランチ接続等があれば、非常時に使えない場合が発生します。ですので、充分注意してください。

## 7.4 各種設定

### 7.4.1 局線種別の設定

本装置内のディップスイッチDP1を下記に設定します。

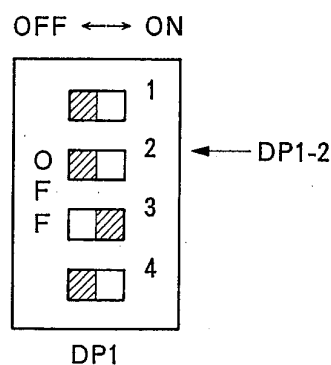
局線種別	ディップスイッチ	
D P	DP1-1	OFF
P B	DP1-1	ON



### 7.4.2 ダイアルスピードの設定

本装置内のディップスイッチDP1を下記に設定します。

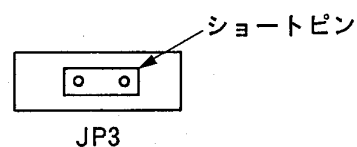
ダイアルスピード	ディップスイッチ	
10 PPS	DP1-2	OFF
20 PPS	DP1-2	ON



### 7.4.3 収容局線数設定

本装置内のショートピンを下記に設定します。

収容局線数	ショートピン	
1 回線	JP 3	ショート
2 回線	JP 3	オープン



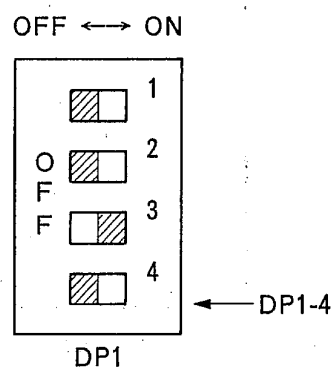
### 7.4.4 メッセージサンプリングスピード設定

設定はありません。

### 7.4.5 テスト0の設定

テスト0	ディップスイッチ	
テスト0不可	DP1-4	OFF
テスト0可	DP1-4	ON

※必ず、通常はテスト不可にしておくこと。



## 7.5 ダイアルデータ、通報メッセージの設定方法

配線を目視確認の上、本装置内のメイン基板上のSW1を投入して下さい。

続いて、電池ケーブルをメイン基板上のCN3に挿入して下さい。

この際電源ランプは、点灯します。以下の操作については、外観図 (P.20第1図)、キーボード操作部 (P.22第3図)、扉開状態図 (P.21第2図) 参照して下さい。

### 7.5.1 ダイアルデータ、通報メッセージのオールクリア

- ① DP1-4をONします。
- ② 本装置内のテストスイッチを押すと、テストランプが点灯します。  
ディスプレイには、 と表示されます。
- ③  キーを押すとディスプレイは、 を表示し、 キーを押すと、テスト0が実行されます。
- ④ ダイアルデータの10宛先(テスト用含む)とメッセージがすべて消去され、オールクリア状態になります。
- ⑤ DP1-4をOFFにする。

※必ず最後はOFFにすること。

### 7.5.2 ダイアル番号設定(最大16桁)

宛先番号と宛先ダイヤル番号を下記の手順に従って設定してください。

宛先番号と宛先との関係は、下記の表の通りです。

ダイヤル番号設定は、1回線収容時、2回線収容時も同様です。

尚、宛先の通報優先順位は、1→2→3→・・・7→8→9の順位で行われます。

119番は、ROMに固定データとして保持されていますので設定の必要はありません。

宛先番号	宛先ダイヤル番号
0	テスト用ダイヤル番号
1	近隣第1通報先ダイヤル番号
2	" 2 "
3	" 3 "
4	" 4 "
5	" 5 "
6	" 6 "
7	" 7 "
8	" 8 "
9	" 9 "

※宛先番号0は、テスト時に必要ですので、テストの際、119番の代りとして通報させたい電話番号を設定して下さい。

- ① 本装置の通報先設定スイッチを押します。  
この時、通報先ランプが点滅します。
- ② 同時にディスプレイに  が表示されます。
- ③ 宛先番号1の入力としてダイヤルキーにて  を入力します。  宛先番号の設定終了は、 を押します。ディスプレイは消灯します。
- ④ 次に宛先ダイヤル番号、例えば    を入力する(0~9の数字)とディスプレイに表示されます。

- ⑤ 宛先ダイヤル番号の入力を完了したら $\#$ を押します。ディスプレイは、②状態となり、次の入力が可能となります。
- ⑥ 通報先設定モードを解除するには、通報先設定スイッチを押して下さい。  
通報先ランプ、ディスプレイの表示は消灯します。
- ⑦ 宛先ダイヤル番号の設定が終了したら、次の操作で設定ダイヤル番号を確認してください。
- ⑧ 通報先確認スイッチを押します。この時、通報先ランプが点灯します。
- ⑨ 同時にディスプレイに  $d-$    が表示されます。
- ⑩ 宛先番号1をダイヤルキーにて入力する。  $d-1$
- ⑪ 宛先番号を入力したら $\#$ キーを押すと、前例の場合   123 が表示されます。設定が12桁以上の場合、最初の12桁がディスプレイに表示されます。
- ⑫ さらに $\#$ キーを押すと、残りの4桁が表示されます。
- ⑬ 次の宛先を確認する場合は、 $*$ キーを押し、⑨～⑫の動作を繰り返して下さい。
- ⑭ 通報先確認を終了する時は、通報先確認スイッチを押下して下さい。  
通報先ランプ、ディスプレイは消灯します。

(注) 未使用の宛先は、④でのダイヤル入力なしで $\#$ キーを押すことにより未使用となります。又、宛先番号0も単体テスト時に必要となりますので、あらかじめ設定しておいて下さい。

### 7.5.3 メッセージの録音

メッセージの登録は、F-1～F-4までをフレーズ毎に録音、再生ができます。

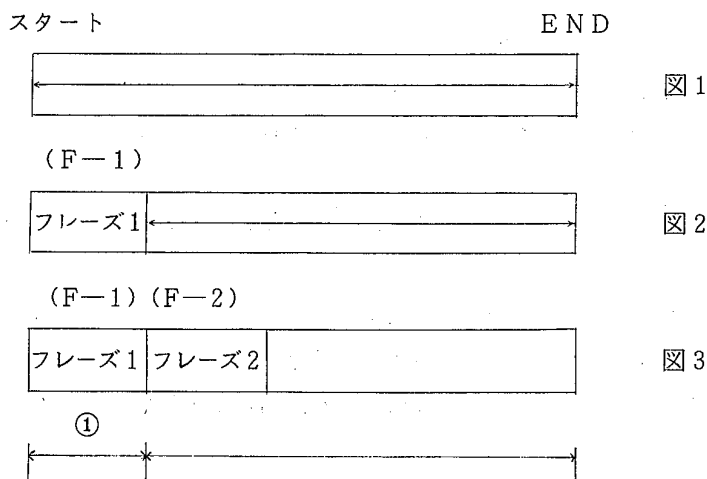
通報の際、送出される内容は手動起動メッセージF-1, -2, -3, 自火報起動メッセージF-4, -2, -3となりますので、各フレーズには、下記の内容を録音してください。

F-1	火事です。 火事です。	約 1.5 秒
F-2	こちら〇〇丁目、〇〇番地、〇〇ホテルです。	約 10 秒
F-3	逆信願います。	約 1.5 秒
F-4	自動火災報知設備が作動しました。	約 3 秒

(注) 録音に対して、録音順序については、指定はありません。

各フレーズの録音は、“ $\#$ ”にてスタート、再度“ $\#$ ”にてストップします。

1フレーズ録音スタート後、ストップが押されないとRAMの最終アドレスまで録音され、以後の録音はできませんのでご注意ください。



(F-1) (F-2) (F-3)

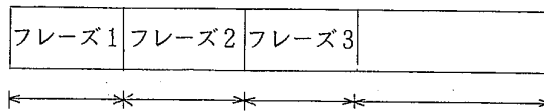


図4

<録音でのメモリーの割付について>

- (1) 初期録音について使用できるメモリーは、0～最大アドレスまでです。(図1)  
〔フレーズ1を録音しても、同じフレーズNo.の再度録音なら0～最大アドレスまでです。(図2)〕
- (2) フレーズ1録音後、フレーズ2の録音は、フレーズ1のエンド～最大アドレスまでです。(図3)  
この時、フレーズ1のフレーズ長が決まります。(図3-①)  
更に、フレーズ1の再録音をした場合、そのレコード長内の録音ができます。
- (3) メモリーの割付をクリアする為には、フレーズNo.0を設定し、そのレコード長(0～最大アドレス)を消去し、初期状態にします。

<録音再生方法>

- ① 本装置のメッセージ設定スイッチを押すと、メッセージランプが点滅します。  
同時にディスプレイは、を表示します。
- ② フレーズNo.1の入力として、キーを押し、キーを押すと、ディスプレイが点滅し、録音可能状態となります。  
↑  
点滅
- ③ 本装置内のマイクに向かい録音メッセージを吹き込んでください。
- ④ 吹き込みが終わったらキーを押してください。  
録音は終了し、ディスプレイの点滅も停止し、次のメッセージ録音待機状態となります。
- ⑤ 次のフレーズを録音する時は、フレーズNo.に該当する番号2～4を押して上記と同様②～④を繰り返します。
- ⑥ メッセージの設定を解除する為、メッセージ設定スイッチを押して下さい。
- ⑦ 次にメッセージの再生は、メッセージ確認スイッチを押すと、メッセージランプが点灯し、同時にディスプレイは、を表示します。
- ⑧ フレーズNo.1の確認の為、キーを押し、キーを押すと、本装置内モニタースピーカからF-1の録音メッセージが再生されます。  
F-2～F-4の場合も同様に操作して下さい。
- ⑨ 再生は、フレーズの録音時間だけ動作し、終了します。  
途中で動作停止したい時は、キーを押して下さい。
- ⑩ 再生の確認が終わったら、メッセージ確認スイッチを押すことにより、再生モードから解除されます。

(注1) フレーズ毎の確認は、上記でできますが、一連の録音の最終確認は、実回線等のテストにて行ってください。

(注2) 録音時は、静かな部屋で女性の明瞭な言葉ではっきりと録音してください。

録音は、何回でも入替できますので、再生で確認してください。

(カギを開け、実装ユニットの中央部にマイクがありますので、マイクの近くでメッセ

ージを録音してください。)

(注3) 録音の簡単なやり方

- ① メッセージ設定スイッチを押し、**1**キーを押し。次に時計を見ながら**#**キーを押し、約1.5秒で**#**キーを押し、F-1の時間を設定して下さい。この時にはメッセージを録音はしません。この場合周囲雑音が録音されます。
- ② 同様にF-2を終10秒、F-3を約1.5秒、F-4を3秒の時間を設定して下さい。
- ③ 一通り設定してから、再度録音の準備をし、メッセージを入れて下さい。設定時間の間にうまく録音できるまで何回でも録音、確認、再生を繰り返して下さい。良好なら次のフレーズを入れて下さい。

7.6 動作試験

動作試験は前扉開の状態で行います。

テスト1は単体テストで、内部電源から電話機回路に電流を供給し、ダイヤル音の確認、通報メッセージ等の確認を行います。

テスト2は内部電源から呼び返し応答用電話機へ電流を供給して呼び返し応答用電話機の側音を確認します。

テスト3はテスト回線、実回線を使用して通報動作を行います。

但し119番への通報は行わずダイヤル番号0に設定されたダイヤル宛先への通報で置き換えます。

試験開始前に本装置の各スイッチ及びランプの状態が下記の通りであることを確認してください。

電源ランプ	(扉前面) ;	電源スイッチONで点灯
発報ランプ	(扉前面) ;	消灯
通話ランプ	(扉前面) ;	消灯
異常ランプ	(扉前面) ;	消灯
非常ボタンスイッチ	(扉前面) ;	OFF
電源スイッチ	(装置内) ;	ON

7.6.1. 単体テスト

単体テストは局線を接続しないで試験しますので、実際に呼出すことはありません。

(1) ダイヤル、メッセージ モニター試験(テスト1)

- ① 本装置内のテストスイッチを押すとテストランプが点灯します。  
ディスプレイには、**[-** と表示されます。
- ② **1**キー押下して**#**キーを押下すると、ディスプレイは、**[-1** を表示し、テスト1がスタートします。
- ③ 119番自動通報用押ボタンを押すと、“119”のダイヤル動作が開始しスピーカからダイヤル音が聞こえます。
- ④ ダイヤル終了後、手動起動メッセージがスピーカから聞こえます。
- ⑤ ③で自火報入力に信号を入れると、ダイヤル動作を行い、自火報起動メッセージがスピーカから流れます。
- ⑥ テスト終了後は、119番自動通報用押ボタン、自火報入力は復旧させてください。
- ⑦ **\***キーを押してテスト1を終了させて下さい。表示は**[-**に戻ります。

- ⑧ テストを終了する時は、テストスイッチを押して下さい。  
テストランプ、ディスプレイは消灯します。

(2) 呼び返し応答用電話機 (テスト2)

- ① 本装置内のテストスイッチを押すと、テストランプが点灯します。  
ディスプレイには、「-」が表示されます。
- ② 2 キーを押して # キーを押すと、ディスプレイは 「-2」 を表示し、テスト2がスタートします。
- ③ 通話ボタンを押し、呼び返し応答用電話機をオフフックすると、送話器からの声が受話器から側音として聞こえます。
- ④ \* キーを押してテスト2を終了させて下さい。表示は 「-」 に戻ります。
- ⑤ テスト終了後は、テストスイッチを押して下さい。  
テストランプ、ディスプレイは消灯します。

7.6.2 テスト回線による119番通報テスト (テスト3)

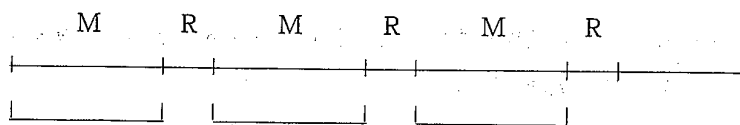
本テストに先立ち、宛先No.0にはダイヤルを設定しておく必要があります。

(1) 本試験の設定

- ① 本装置内のテストスイッチを押すと、テストランプが点灯します。  
ディスプレイには、「-」が表示されます。
- ② 3 キーを押して # キーを押すと、ディスプレイは、「-3」 を表示します。  
テスト3がスタートします。

(2) 手動起動試験

- ① 本装置の119番自動通報用押ボタン、または外部非常押ボタンを押して下さい。
- ② 本装置の発報ランプが点灯します。
- ③ 次にダイヤルトーンが聞こえ、ダイヤル送出音が本装置内のスピーカから聞こえます。
- ④ リングバックトーンが聞こえます。
- ⑤ ここで、相手が応答したら、本装置のスピーカから下記の手動起動メッセージが10サイクル繰り返して聞こえます。



1区切りのメッセージ 1区切りのメッセージ 1区切りのメッセージ

(1サイクル) (2サイクル) (3サイクル)

M ; 5.1(7)項の手動起動メッセージ

R ; 休止時間 おおむね5秒

(注) メッセージは少なくとも3サイクルの確認をしてください。

- ⑥ そのままにしていると、次に一般宛先に順次移行します。  
動作は、正常通報動作と同じです。

途中でやめたい時は、取消ボタンを押して下さい。

⑦ 最終まで呼出すと停止し、発報ランプが点滅状態となります。

但し、外部非常押ボタンは点灯のままです。

⑧ ①で押した119番自動通報用押ボタンを復旧すれば、発報ランプは消灯します。

(3) 自火報起動試験（自動火災報知設備連動の場合）

① 前記(1)の状態に設定します。

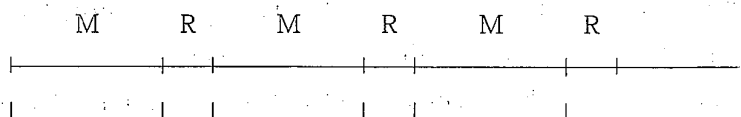
② 自動火災報知設備の移報接点を動作させます。

③ 発報ランプが点灯します。

④ 次にダイヤルトーンが聞こえ、ダイヤル送出音が本装置内のスピーカから聞こえます。

⑤ リングバックトーンが聞こえます。

⑥ ここで相手が応答すれば、本装置のスピーカから下記の自火報起動メッセージが10サイクル繰り返し聞こえます。



1区切りのメッセージ 1区切りのメッセージ 1区切りのメッセージ

(1 サイクル) (2 サイクル) (3 サイクル)

M ; 5.1(7)項の自火報起動メッセージ

R ; 休止時間 おおむね5秒

(注) メッセージは少なくとも3サイクルの確認をしてください。

⑦ そのままにしていると、次に一般宛先に順次移行します。

動作は、正常通報動作と同じ。

途中でやめたい時は、取消ボタンを押して下さい。

⑧ 最終まで呼出すと停止し、発報ランプが点滅状態となります。

但し、外部非常押ボタンは点灯のままです。

⑨ ①で作動した自動火災報知設備の移報接点を復旧すれば、発報ランプは消灯します。

(4) 手動起動メッセージ優先試験（自動火災報知設備連動の場合）

① 前記(1)の状態に設定します。

② 自動火災報知設備の移報接点を作動させ、前記(3)項⑥の自火報起動メッセージ送出状態にします。

③ この状態で本装置の119番自動通報用押ボタンを押せば、メッセージは自火報起動メッセージから手動起動メッセージに切り替わり、前記(2)項⑥の手動起動メッセージ送出状態となり、以後前記(2)項⑥～⑧の操作をすれば、それぞれ各項の状態となる。

(5) 途中割込通話試験

① 前記(1)の状態に設定します。

② 119番自動通報用押ボタンを押し、前記(2)項⑥の手動起動メッセージ送出状態にします。

③ この状態で呼び返し応答用電話機の送受器を上げ、通話ボタンを押せば通話ランプが点灯し、相手と通話ができます。以後、前記(2)項⑥～⑧の操作をすれば、それぞれ各項の状態となる。

(6) 話中再呼出試験

- ① 前記(1)の状態に設定します。
- ② 相手先を話中状態にします。
- ③ この状態で本装置の119番自動通報押ボタンを押せば、ダイヤルトーンが聞こえ、ダイヤル送出音が聞こえます。その後、話中音が聞こえ、局線を開放し、これを繰り返します。  
注) この繰り返し動作は少なくとも3回以上確認してください。
- ④ 確認が終了したら取消スイッチを押し、119番自動通報用押ボタンを復旧させ、前記(2)項⑧の状態に戻してください。

(7) 不応答再呼出試験

- ① 前記(1)の状態に設定します。
- ② 本装置の119番自動通報用押ボタンを押し、相手先を呼出し状態のまま待機させます。前記(2)項②～③の動作後、スピーカより約40秒間リングバックトーンが鳴動 → 回線断 → 前記(2)項②～③の動作後、再度40秒間リングバックトーン鳴動 → ……の動作を繰り返し行う。  
注) この繰り返し動作は、少なくとも2回以上確認してください。
- ③ 確認が終了したら取消スイッチを押し、119番自動通報用押ボタンを復旧させ、前記(2)項⑧の状態に戻してください。

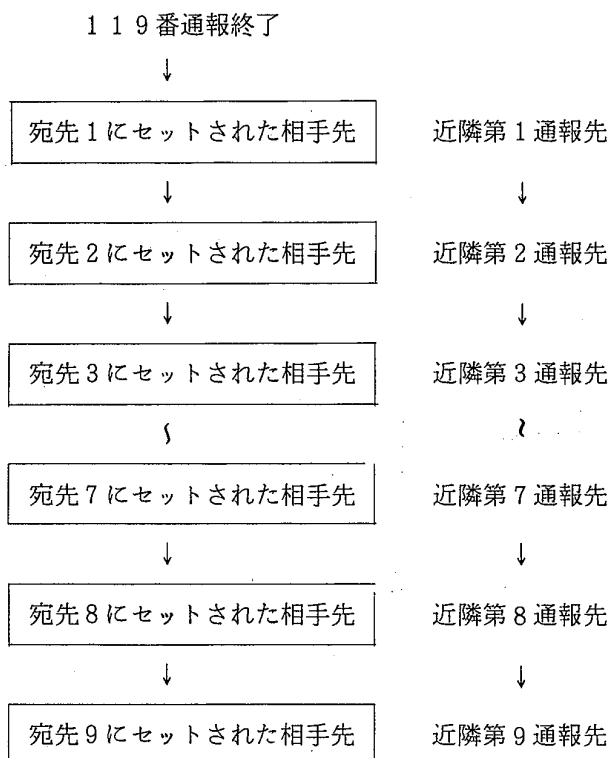
7.6.3 実回線テスト

本装置のカバーを閉め、鍵をかけ、実使用状態で以下の試験を行ってください。

尚、本試験に当たっては、試験前に119番及び近隣宛先に対しあらかじめ試験をする旨、了解をとってください。また、試験終了を連絡してください。

- ① 本装置の119番自動通報用押ボタンを押します。
- ② 本装置の発報ランプが点灯します。
- ③ 本装置のスピーカからダイヤルトーンが聞こえます。
- ④ 次にダイヤル送出音が本装置のスピーカから聞こえます。
- ⑤ ここで119番が使用中でなければ、リングバックトーン（呼出音）が本装置のスピーカから聞こえ、119番が応答すれば、手動起動メッセージが119番に対し送出されます。  
同時に本装置のスピーカから送出メッセージ及び119番側の声が聞こえます。  
注) もし119番が話中であれば、④の時点で本装置のスピーカから2秒間の話中音の後、局線を開放し、約15秒後再捕捉し、上記③→④の動作を繰り返し119番が呼出状態になるまで繰り返し行います。
- ⑥ 上記⑤のメッセージ送出状態は、119番からの呼び返し信号が送出されるまで継続し、119番から呼び返し信号が送出されれば119番へのメッセージ送出は停止し、呼び返し応答用電話機のベルが鳴り、本装置の通話ランプが点灯します。そして、その電話機の送受器をあげれば119番と通話できます。
- ⑦ ここで上記⑥の状態は、本体の収容回線が1回線の場合には、呼び返し応答用電話機及び119番側が通話を終了するまで継続し、終話後30秒経過もしくは、ビジートーン検出で局線を開放し、再度ダイヤルトーンが検出されれば本装置にあらかじめセットされている近隣宛先に対する通報動作を開始します。また、収容局線数が2回線の場合には、前記⑥の状態はそのまま継続し、局線No.2を使って近隣宛先に通報動作を開始します。

近隣宛先への通報動作は次のように行われます。



注1) 近隣宛先に対する呼出時間は最大40秒です。

注2) メッセージ送付は、相手が応答した時点からスタートします。

また、近隣第1通報先～近隣第9通報先へのメッセージは、全て同一メッセージとなります。

注3) 相手先が話中または不応答の場合には、順次、次宛先に対する通報動作に移行し、話中または不応答宛先に対してのみ2サイクル目の通報動作を行います。

1→2→3・・・→9→1→2→3・・・→9

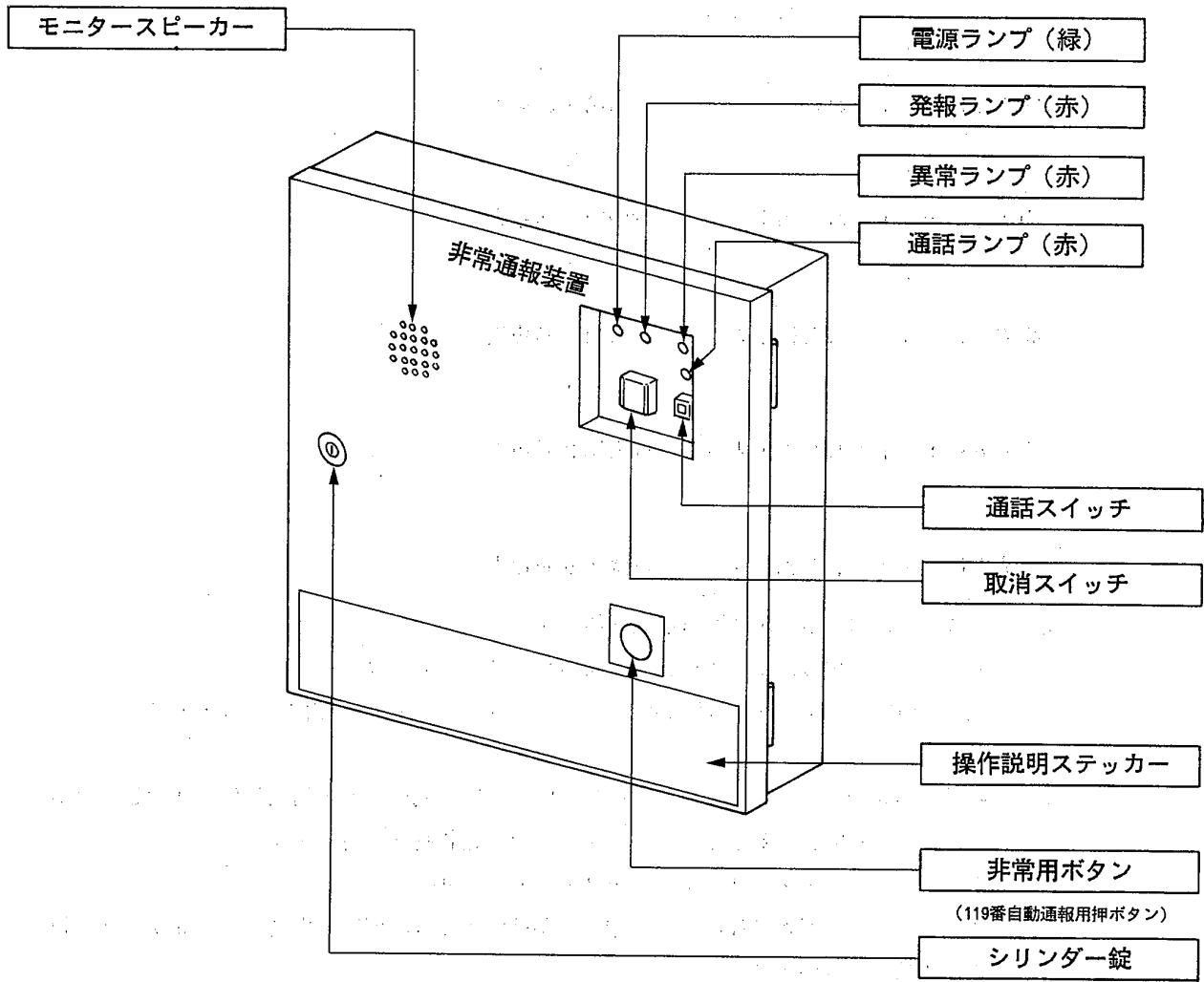
2サイクル目の通報動作において相手先が話中または不応答の場合でも、3サイクル目の通報動作は行いません。

- ⑧ 上記⑦の近隣宛先に対する一連の通報動作が終了しましたら、本装置の119番自動通報用押ボタンを復旧させ、取消ボタンを押してください。

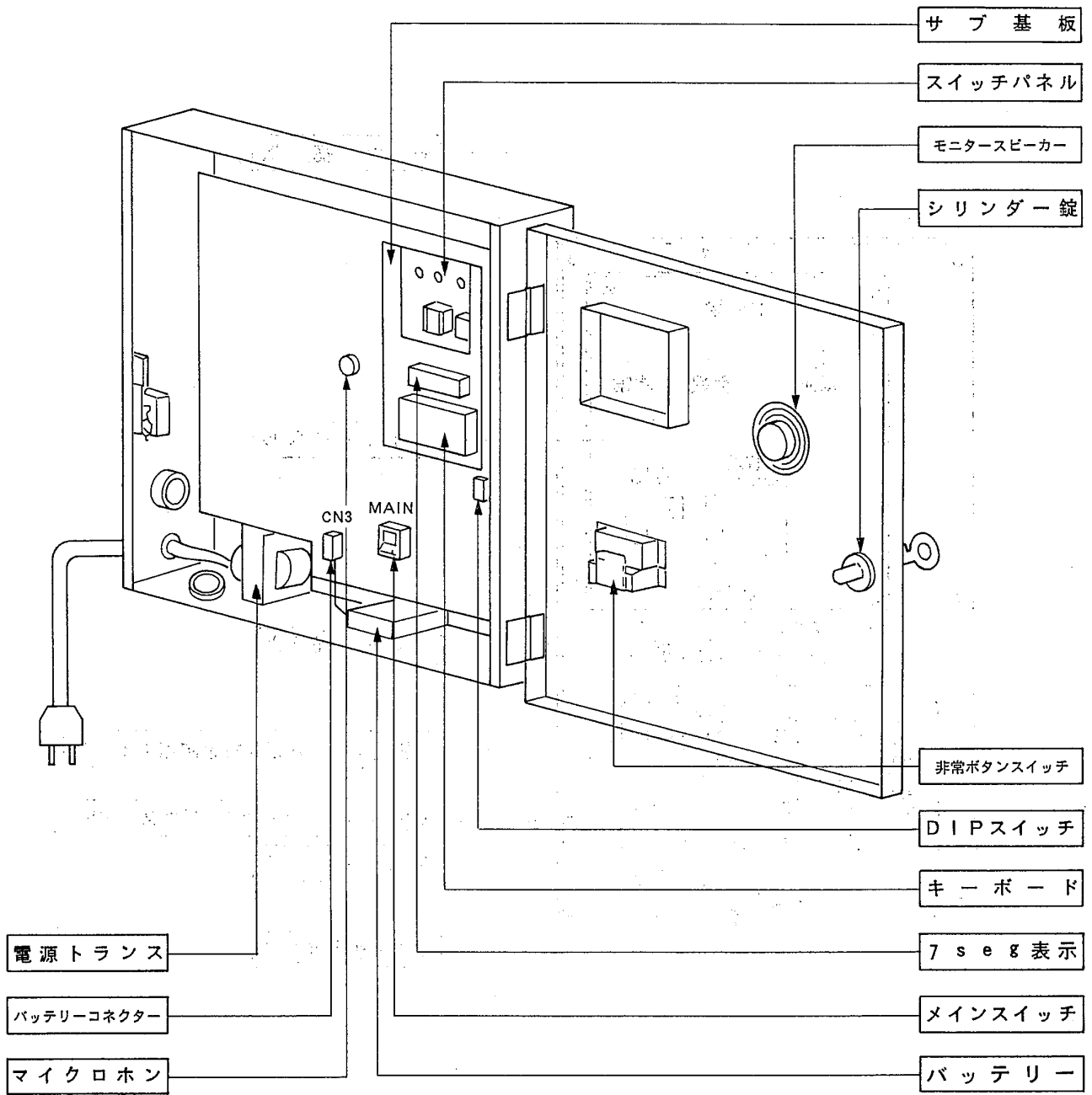
本装置の発報ランプが消灯し、待機状態となります。

(注) 取消ボタンを押しただけで、119番自動通報用押ボタンを復旧させない場合、本装置の発報ランプは点滅状態を継続します。必ず119番自動通報用押ボタンを戻し、発報ランプを消灯状態にしてください。

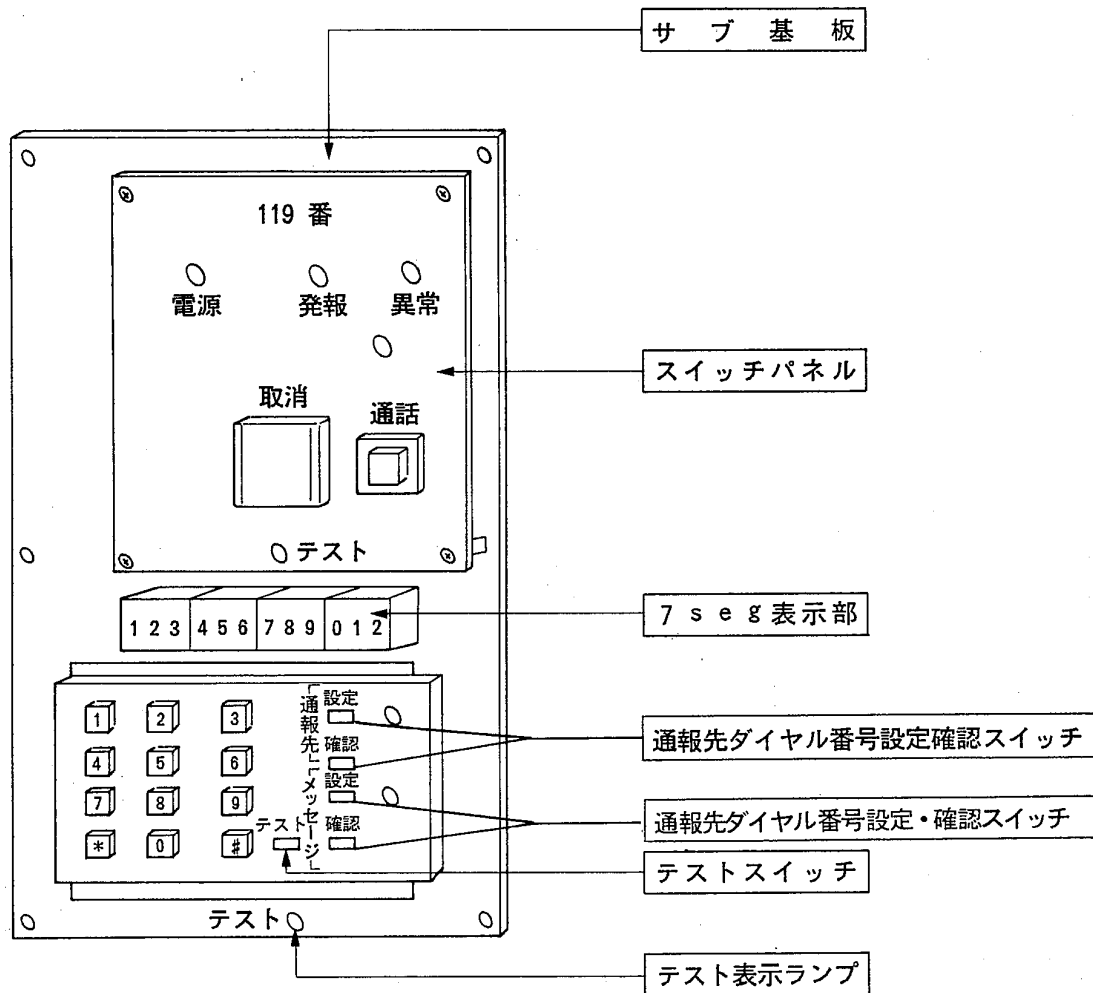
- ⑨ 以上で動作試験は、終了しますが引き上げに当たってもう一度本装置の発報ランプが消灯状態にあることを確認してください。



第1図 外観図



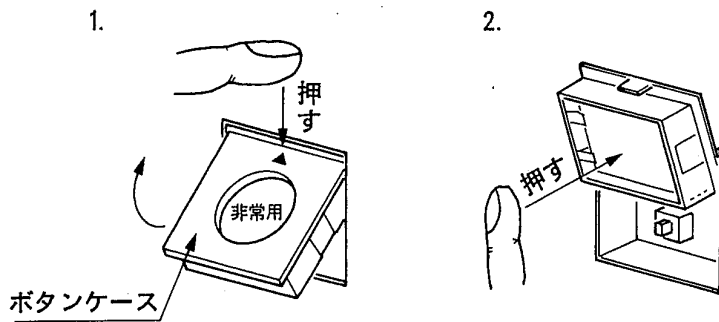
第2図 扉開状態図



第3図 キーボード操作部

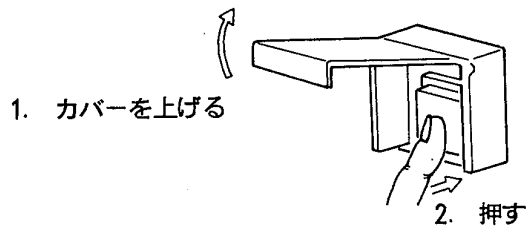
## 8. 取扱上の注意

非常ボタンを復旧させるには、



1. ボタン上部の▲マークの所を強く押し、“ボタンケース”を裏返して下さい。
2. 裏側“ボタン”を強く押して元へ戻して下さい。
3. ボタンケースを裏返して、元の位置へ戻して下さい。

非常通報を取り消すときは、



通報取消スイッチの

1. 保護カバーを上げます。
2. スイッチボタンを押して下さい。